

# 矢作新報

# 建通新聞

## 国道153号雪氷対策の出発式開く

名古屋国道

国土交通省名古屋国道事務所は3日、本格的な降雪・凍結シーズンに備え、国道153号の冬期交通の安全確保と除雪、凍結防止剤散布作業の安全を図るため、愛知県豊田市稲武町の稲武雪寒基地で「国道153号雪氷

## 稲武雪寒基地で車両出発式

豊田市稲武地区の御所貝津町にある国土交通省の雪寒基地で3日、国道153号の冬季の安全を守る雪氷対策車両の出発式が行われた。

豊田市内の国道153号（長野県境くみよし市境）の維持管理は、国土省の名古屋国道事務所から大啓建設㈱と豊田市東梅坪町に委託されており、冬季の除雪や凍結防止剤散布もその一環として行われている。

今回の出発式は作業員の安全意識向上や事業のPRが目的の恒例行事。本格的な冬を迎える前のこの時期に毎年行われている。出席したのは名古屋国道事務所の職員と、

対策出発式」を行った写真。

名古屋国道事務所の板倉信一郎所長は「国道1



53号は地域の生活を支える幹線道路であり、広域的にも重要な役割を担っている。雪氷対策は24時間体制で昼夜を問わず厳しい作業だが、安全第一で作業してほしい」と述べた。出発式には同事務所や豊田市、沿道自治区長、作業請負業者らが参加した。

雪氷作業受注者の大啓建設（豊田市）の月山靖土木部長が安全宣言を行い、車両安全点検の後、除雪車4台が出発した。

## R153降雪・凍結シーズンへ



稲武の国道153号沿いにある国交省の雪寒基地を出発する雪氷対策車両。

大啓建設㈱社員のほか、豊田市職員、沿道7自治区の区長ら。大啓建設が安全宣言を読み上げたあと、凍結防止剤散布車3台と除雪車1台を点検して出発

した。

冬季の雪氷対策作業は情報センターからの知らせをもとに出動し、夜間から明け方にかけて行われている。市民の安全を守る仕事だ。【新見克也】

# 新三河タイムス 平成25年12月12日 掲載

## 国道153、155号で夜間

# スリップ事故防止へ雪氷対策

本格的な冬シーズンに備え、地場ゼネコン最大手、太啓建設（豊田市東梅坪町、大矢伸明社長）は1日から、道路上の雪氷対策を始めた。通行量の多い国道153号、155号を中心に凍結防止剤を散布するほか、除雪作業を実施。路面凍結や積雪によるスリップ事故を未然に防ぐ。

【九郎田宏之】

## 太啓建設

対象は国道153号・みよし市打越町から豊田市大野瀬町までの総延長63・4キロと、155号・知立市山屋敷町から瀬戸市東茨町まで40キロの区間。雪氷車4台が塩化ナトリウムを散布する。

期間は3月末までで、午後9時半からの夜間作業を予定。天候や路面状況によって出勤時間や作業回数を変える場合もあり、基本的に24時間体制を敷く。

うち1台は除雪機も装備。昨年度の最低気温マイナス13・4度を記録するなど市

注を受け、長年にわたり同国道の雪氷対策をしている。稲武雪寒基地で出発式を行



出発式で車両点検する作業者ら  
= 3日、豊田・御所貝津町で

った。地元区長ら来賓を前に名古屋国道事務所の板倉信一郎事務所長は「国道153号は豊田市と稲武を結ぶ唯一の幹線道路。今年は厳しい冷え込みと積雪が予想される。着実に対策したい」と力強くあいさつ。作業者が車両点検や安全宣言などした。

足助署によると、11月末までの管内の交通事故は82件で、153号では30件。うちタンクローリー車の単独死亡事故が1件発生した。交通課では「稲武や足助など山間部はスピードが出やすい上に、カーブが多い。冬場は視界の悪さに加え、特にスリップへの注意が必要」と呼びかけている。